

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (5月28日・3月11日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな教育課程の編成の検討とともに、実施に向けて履修や選択に役立つ教育計画を生徒に示し、学びやすく、個に応じたオープンなカリキュラムを編成する。 ○ 生徒の達成感や達成感を高める授業に向けて、授業改善を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒個々に応じた総合選択科目の編成と配置について具体的な方向性を示す。(学習指導・授業改善) ② 生徒が達成感を得られるよう授業改善を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の興味・関心に基づいた講座を設定するとともに、講座の精選を行う。 ② 研究授業、公開授業などを通じ授業改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 時間割作成が、生徒の選択科目を十分に受け入れられるように進んでいる。 ② 授業改善のための研究授業時の協議を授業実践に反映できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 県立高校改革実施計画(Ⅰ期)の「教育課程の改善」に基づく総合学科高校としての新しい教育課程を編成した。 ② 2回授業評価を実施し、その結果を、各教科・系列で分析し、職員間で共有した。また、若手教員が増加する中、様々な研究授業が準備され、中堅、ベテラン教員も参加することにより、組織的な授業改善に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育課程再編に伴う、履修単位増に対応するため、実際の時間割編成、開講人数等、多岐に渡る課題検討がある。 ② 授業評価の分析結果を踏まえ今後の授業実践を行っていく必要がある。また、「アクティブラーニング」「授業改善のための研究授業」を通じて、職員間で情報共有し、授業力向上を目指す。 	(学校評議員) <ul style="list-style-type: none"> ① 総合学科らしい柔軟な学びが、年次進行型の運用でできるのか疑問である。 ② これまでの金沢総合の良い取り組みは継続し、目的をもって入学してきた生徒がより深めていけるもの、夢を確かなものにできる教育を続けてほしい。 ③ 3年次生に1・2年次生の教育的サポートをさせる機会を設け、生徒自身によるアクティブ・ラーニングを実践してはどうか。 	(成果) <ul style="list-style-type: none"> ① 校内準備委員会を設置し、総合学科高校としての系列の整理と、それに伴う新しい教育課程を編成した。また、生徒が幅広い科目選択が出来るように、面談実施等によるきめ細かい履修指導と支援体制が確立している。 ② 2回行った「生徒による授業評価」の結果を踏まえた教科・系列別研修会を9月と12月に実施し、授業改善に向けた共通認識を確認した。 (課題) <ul style="list-style-type: none"> ① 来年度から卒業に必要な修得単位数を74単位から80単位に増加することによる時間割編成と、開講講座の実現に向けて、講座数と施設等に課題がある。 ② 授業改善の一つの手法として、「アクティブラーニング」の視点の意義を教員が正しく認識して学習成果の向上につなげる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の興味関心及び進路実現に応じた総合選択科目について、校内準備委員会を中心に、各系列及び教科において継続的に検討し、科目の精選及び新設することで学習内容の深化を図る。また、カリキュラムグループ中心に、具体的な時間割編成の実現を検討していく。 ② 主にガイダンスⅠⅡⅢや総合選択科目では、本校の学校教育目標にある「問題解決力」「考える力」「人々と共に協働する力」を培うアクティブラーニングの視点を取入れた学びが実践されているが、継続して共通科目における活用により、学習成果を高めるための授業改善を推進していく。
2 生徒指導・ 支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の「生きる力」の育成を図るために、生徒の自主性を重んじ、責任ある行動の自覚を促す。生徒の挑戦や、やり直し、自分探しを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の規範意識を高めるとともに、迅速な教育相談体制を確立し、充実した学校生活を促す。 ② 学校行事、生徒会、部活動を通して、生徒の主体的な行動力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 規範意識育成のため、服装・頭髪指導を生活指導重点目標に設定し、全職員による指導体制を引き続き継続する。 ② 生徒が充実感や達成感をもてるように、生徒主体の活力ある学校行事の企画・運営、部活動を目指し、その実現に向け支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 服装・頭髪指導が継続的に行われ、全職員による統一した指導体制が確立できたか。 ② 生徒会執行部や各種委員会の生徒が中心となった学校行事の運営をサポートし、生徒に充実感・達成感を与えることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 規範意識育成のため、服装・頭髪指導を生活指導重点目標に設定し、全職員による指導体制を行った。 ② 生徒が充実感や達成感を持てるように、生徒主体の活力ある学校行事の企画・運営、部活動を目指し、その実現に向け支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 指導体制は概ね確立できているが、細部でまだ改善すべき点が残る。 ② 最大の行事である文化祭のより一層の充実を図り、生徒中心の行事運営を目標としている。 	(学校評議員) <ul style="list-style-type: none"> ① 最近、金沢総合の生徒は、挨拶が出来て、身だしなみがきちんとしている。全体的に、非常に落ち着いてきており、好感が持てる生徒が多い。今後も継続的に指導を行っていただきたい。 ② 授業の様子を見ていて、生徒が元気という印象がある。 ③ 文化祭では地域も参加できるような企画も検討できないか。また、部活動の生徒は地域とのつながりを積極的に持っている。今後も継続してほしい。 	(成果) <ul style="list-style-type: none"> ① 定期的な朝の「あいさつ運動」及び「交通安全指導」等の登下校指導と、「フォーマルの日」として身だしなみ指導を行うことで、生徒の生活規範意識が向上し、近隣地域からの信頼を得るなど、成果をあげている。 ② 生徒の積極的で主体的な活動を支援し、10月実施の文化祭など、生徒会執行部や各種委員会を中心に企画運営を行っている。また、複数の部活動、授業が、地域連携の取組みとして地元のイベント等に参加して、地域交流を深めている。 (課題) <ul style="list-style-type: none"> ① 日常的な頭髪指導について、生徒に対する公平性を保つため、職員の共通理解を常に確認することが必要不可欠である。 ② 学校行事における地域との協働、企画のさらなる発展を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリア教育の一環として、身だしなみを正すことは学校生活の基本であり、生徒自身が学習する姿勢に大きく影響する問題である。制服、頭髪をきちんとする習慣がついてきた生徒が多いが、生徒指導の根幹として今後も継続して指導していく。 ② 生徒の自主自律の姿勢を培い、魅力ある学校行事の企画力を向上させる。さらに、部活動加入率アップを引き続き目指し、充実した生徒主体の活動を支援していく。
3 進路指導・ 支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決力を育てる授業、コミュニケーション能力を育てる授業を展開する。 ○ ガイダンスや多様な授 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己を見つめ将来の職業や生涯学習につながる支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路選択に向けてガイダンスⅠ・Ⅱの授業及び、多様な選択科目を活用できるように支援する。 ② ガイダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンスや多様な選択科目を活用できたか。また、課題研究の内容を深めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 単元「他者を通して自分を見つめる」等、新たな取組みも導入し、ガイダンスのより一層の充実を図った。 ② ガイダンスⅠⅡⅢでの取組みを踏 	<ul style="list-style-type: none"> ① どう現在のガイダンスを発展継承させていくのか、校内の組織・体制の見直しを行う必要がある。 ② 進路支援業務において、教員負担が偏る傾向が顕著 	(学校評議員) <ul style="list-style-type: none"> ① 課題研究等で、この地域のなりたちを理解してほしい。地域を知ってもらえる機会をつくってもらいたい。 ② 課題研究が素晴らしい。去年の発表を見て完成に近いと感じた。 	(成果) <ul style="list-style-type: none"> ① 「ガイダンス」等の授業における探求活動・体験活動・研究活動から、生徒自身が人の話を聞き、自分の意見を発表するというコミュニケーションスキルを身につけている。本校の学校教育目標に沿った実践とその成果が実感できる。 ② 担任やガイダンスグループ中心に、面談や説明会等のきめ細かい進路相談 	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス(「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」)の授業は、本校のキャリア教育における根幹を担っており、学習内容や組立てについては確立してきている。今後は、その展開方法やスキルの定着と継承が課題であるとともに、さらなる進化を目指し

		業、柔軟な学びを活用し、生徒が目指す進路実現を支援する		Ⅱ・Ⅲでの学習活動を通し、視野を広げ様々な考え方を享受することで、自己を見つめ将来の職業や生涯学習につながるものを見出せるよう支援する。	② 生徒が目指していた進路決定が実現したか。	まえ、3年次生一人ひとりの進路決定に向けたきめ細かな指導を行った。	であり、これらの課題解消を検討する必要がある。	チーム、団結の中で教員も上手く大人として指導していると思った。 ② 課題研究等を通じて、生徒のプレゼンテーション能力は伸びていると感じられる。今後は、その学びが継続的なものとなることを期待したい。	を行い、生徒希望の進路実現に向けて適切な情報提供と、上級学校や企業との丁寧な連絡調整を実現している。 (課題) ① 「ガイダンス」の授業は本校のキャリア教育における大きな柱であり、学習内容や組立てについては確立してきている。今後も、その展開方法やスキルの定着と継承が課題である。 ② ガイダンスグループが主導し、3年次が中心となって進路支援を行っているが、一部の教員に業務が集中している現状がある。	ていく必要がある。 ② ガイダンスグループが主導し、3年次が中心となって進路支援を行っているが、事故防止及び進路支援のノウハウの継承の観点からも、さらなる機能的な組織作りと効率的な業務分担を模索することが必要である。
4	地域等との協働	○ 地域や保護者との連携をさらに進め、本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動を推進する。 ○ 生徒の防災意識を高め、津波対策にも取り組む。	① 地域連携をさらに深化し、信頼される学校づくりを推進する。 ② 地域と連携した防災教育を推進する。	① 地域連携、学校間連携を強め、開かれた学校づくりを推進する。また本校の教育活動を発信して、広報活動を推進する。 ② 防災計画を策定したかとする。	① 体験授業やオープンスクールおよび学校説明会や中学校訪問、さらに部活動等による地域連携の実施状況が充実したか。 ② 防災計画を具体化したか。また、防災に係る地域連携を行ったか。	① ・体験授業は前期9講座 111名、後期8講座 196名(説明会含)の中学生が受講した。 ・10月10日に開催したオープンスクールには384名が参加した。 ・第1回学校説明会には475名の中学生、保護者が参加した。 ・第2回学校説明会には503名、ミニ学校説明会には299名が参加した。 ・中学校訪問は夏季休業中を活用し実施した。 ② 5月に第1回避難訓練、12月に第2回避難訓練を実施した。また8月には備蓄品の補充等防災にかかわる業務を滞りなく遂行した。	① 説明会等開催の案内がホームページでわかりにくい面もあったので、公表の仕方を工夫する。また、多くの中学生により周知できるように広報のあり方を検討する。 ② 大規模災害に備えて、より実際の場面を想定した訓練になるよう研究する。また、学校周辺を理解するために、DIG(災害図上訓練)の充実を図る。	(学校評議員) ① 地元企業としては、地元の学校とつながりたいと考える。地元の高校、大学から多く就職してもらい、地元との接点を持ちたい。工業団地の存在は、企業と地元の双方にとって良いと思う。地元企業から御校に、社会人講話などで人材を派遣している。地域連携は重要だと感じている。 ② 小・中学校は地域と密着しているが、県立高校は全県学区なので地元根付くのは難しい部分もある。防災、文化祭などで連携することで地域に根付いた学校を目指してほしい。 ① 新たな教育課程を踏まえて、総合学科高校としての学びの内容を中学生や保護者のみならず、中学校の教員にも広くアナウンスすると良いのではないかと。	(成果) ① 広報活動については、6月の全公立展から始まり、7月の体験授業、8月の公私合同説明相談会、8月と11月には学校説明会を開催した。特に、全公立展と学校説明会には、生徒も参加して、個々の説明対応や司会進行及び発表を行い、来場者からとても好評だった。また、8月には、担当職員による中学校訪問も行った。 ② 5月と12月に避難訓練を行い、9月にはシェイクアウト訓練を行った。本校は津波想定地域なので、訓練での避難場所は校舎の上部階であり、最後は体育館に集合して安否確認を行った。生徒は自覚をもって行動し、避難はスムーズに行われた。 (課題) ① ホームページの閲覧数が多いことを踏まえ、コンテンツの内容の充実や更新数を増やし、本校の教育活動の発信に努める必要がある。 ② 地域の補助的避難場所として、地元自治会・行政・消防等との連携をどのように構築していくかが課題である。	① 本校の特色である総合学科とは何かをわかりやすく説明できるシステムを創り上げていく、さらなる工夫が必要である。そして、総合学科の意義とメリットを理解してもらい、その魅力を伝える努力が継続的に必要である。 ② 防災訓練等を活用して、地元自治会や行政・消防との情報交換会等の実施を検討する必要がある。大規模災害発生時には、学校が避難場所となり、多くの人々が集中してくることも有り得る。このことを想定した自助と共助のあり方を含めた防災教育を行っていくことが重要である。
5	学校管理 学校運営	○ グループ業務等の見直しなど、学校運営組織の再編に取り組む。 ○ 職員の事故不祥事の未然防止に努める。	① 総合学科高校としての教育活動のさらなる向上を図るために、業務の見直しを行う。 ② 本校の実態を踏まえた事故不祥事防止研修を実施する。	① 「金総の今後の10年」に向けた学校づくりを支えるグループ業務等の見直し、学校運営の再編を含めた具体的な取り組みを推進する。 ② 事故・不祥事の防止に向け、事例報告等を共有し、併せて適正な会計執行体制を共有する。	① グループ再編を踏まえた次の課題解決に向けた取り組みが出来たか。 ② 事故防止会議の企画・運営を通して、定期的に事例を職員間で共有することで、事故・不祥事の未然防止に寄与することができたか。	① 「校内組織における学校改善の取り組み」のアンケートを各グループ・教科・系列・年次及び、各個人を対象に実施し改善点の整理を行った。 ② 「平成28年度不祥事ゼロプログラム」の年間計画に基づき不祥事防止会議を実施した。	① アンケート結果を集計、整理することで次年度に向けた具体的な改善の方向性を提起する。 ② 今後も事故防止会議を計画的に開催し、本校での「不祥事ゼロ」達成に向けた取り組みを継続的に実施する必要がある。	(学校評議員) ① 校内の業務を見直すことは重要である。機能的な学校組織を構築してほしい。 ② 教育公務員に対する社会の目は厳しい。信頼は一瞬にして崩れるが、回復するのは大変なもの。ぜひ不祥事が起きないように意識を高めてほしい。 ① 教員の負担がますます増加してしまうのではないかと心配している。教員業務アシスタントの配置等を通じて、業務負担の軽減を図ってほしい。	(成果) ① 9月に「校内組織における学校改善の取り組み」のアンケートを各グループ・教科・系列・年次及び、各個人を対象に実施した。この結果を集計し、課題と改善策を協議することで、根拠からの学校改善の意識が向上した。 ② 4月に不祥事ゼロプログラムを策定し、毎月職員会議の際に不祥事防止研修会を実施した。各グループにテーマを設定することで、職員による具体的な事例が紹介されて、不祥事の未然防止の意識が高まる効果があった。 (課題) ① 職員アンケートからは、特定の職員の業務の偏り等、業務分担を課題にあげる職員が多かった。今後も継続的に具体的な改善策を協議して創り上げることが課題である。 ② 日常的な意識が薄れないように、教育公務員としての根本的な姿勢と自覚を培うため、不断の努力を行うことが重要課題である。	① アンケートから出てきた意見を整理して、短期的課題(今年度中に改善するもの)と、長期的課題(来年度以降にかけて継続的に改善していくもの)に分類し、課題解決を先延ばしにしないで責任感をもって学校改善していく意識を高めることが重要である。 ② 不祥事防止の取り組みが形骸化しないように、日常的に具体例を提示して危機管理ができるようにしていくことが必要不可欠である。